

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: R6年 2月 10日

実施日: R6年 1月

事業所名:あまはれ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	基準となっているガイドラインに比べても広いスペースを確保していますが、できる限り場所を広くとれるように、机や棚の配置などを工夫しています。	はい20名 どちらともいえない4名	学習に取り組みやすいような仕切りのある場所を用意したり、少人数での活動を設定したりして、限られたスペースを有効に活用できるように努力します。
	2 職員の適切な配置	人員基準は満たしています。専門性についても教員・幼稚園・保育士免許いずれかを所持している児童指導員を配置しています。また、いろいろな資格取得に取り組んで	はい19名 どちらともいえない1名 わからない2名	個々の子どもへの適切な支援ができるよう積極的に研修に取り組み、専門性を高めるようにします。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	階段や大きな段差もなくすることで、バリアフリーを徹底し安全な環境を整えます。	はい18名 どちらともいえない3名 わからない3名	子供たちにとって安全に過ごせるような環境を作り、安心して活動できるような空間作りに努めます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日清掃を行い、清潔に努めています。通所時、外から帰ってきた時、おやつ前、トイレ後の手洗いの支援や、除菌、空気清浄機の設置等で衛生面の徹底を図っています。	はい22名 どちらともいえない1名 わからない1名	衛生面とともに、感染症対策にも取り組み、安心、安全な施設作りをします。また、子どもたちに清潔への意識づけをしていきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	子どもの行動などについて、すぐに他の職員に伝え、職員会議などで改善すべき点を共有し、日々業務の改善に努めています。		今後も、積極的にPDCAサイクルを取り入れ、今以上に積極的に職員の業務改善を図ります。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価は行っていません。		保護者や他事業所・関係機関等の意見や参考になるところは随時取り入れ、よりよい改善を図ります。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部の講習会・研修会に積極的に参加し、その内容を全職員で研修する中で意見交換をして資質の向上に努めています。		外部研修への参加、他事業所とも連携して勉強会を行います。また、事業所内研修で事例検討などをして、職員の意識・資質の向上を図っていきます。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	契約時とその後も定期的に子どもの特性に配慮した支援計画を作成しています。保護者と課題を共有し、学校や相談支援所とも連絡を取り合いながら、よりよい支援計画を作成しています。		日頃から子どもの様子について話をする機会を作り、子どもの特性や実態に応じた支援計画を作成するように心がけます。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別指導(学習、制作活動、言語訓練等)と集団活動(体験学習、ゲーム、リトミック、体操、調理、実験等)などを組み合わせて計画を作成しています。	はい24名	個々の学習課題に応じた支援をします。また集団活動では、いろいろな活動を体験することによって、興味・関心を広げ余暇活動につながるように工夫します。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個々の実態や課題に応じた、具体的な支援内容の記載をしています。		子どもたちが達成感を得られるような計画や支援に心がけ、今後も継続してより具体的な支援内容が提示できるよう努めていきます。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別の支援計画に基づいて支援を行っています。新たな支援が必要などときは、随時見直しを行っています。	はい23名 どちらともいえない1名	子どもの実態に応じて支援のあり方を見直し、適切な支援ができるようにします。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	係の職員が、季節の行事などを盛り込んだプログラムを計画立案し、全員で検討しています。子ども達の実態よく話し合っ、内容を決めています。		子ども達の個々の特性を理解し、個々に応じたプログラムを考えて、成長につながるようにしていきます。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	各家庭の状況とニーズを考慮し、可能な限り保護者や子どもに合わせた支援を行っています。	はい21名 わからない3名	今後も、子どもや保護者のニーズに合わせてきめ細かい支援を行います。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	職員全員で、日頃から姫路市や個人が企画するイベントの情報を収集して、新しい活動を取り入れるようにしています。		子どもたちが継続して取り組むプログラムだけでなく、新たなプログラムを取り入れて、意欲的に取り組めるように工夫します。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日、職員全体でその日のスケジュールや支援内容や保護者からの連絡について確認しています。		今後も、職員全員で打ち合わせを行い、大切なことが抜けないよう確認の徹底に努めます。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、職員全員で振り返りの時間を設けて情報共有しています。		今後も、職員全員で振り返りを行い、情報共有の徹底に努めます。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援の内容に関しては、具体的な内容をファイルに記録して保存し、保護者にも連絡帳で知らせています。また、会議などで支援の確認や情報共有、見直しを行っています。		職員全員で話し合いを行い、改善が必要な場合は見直しを行うようにします。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングだけでなくご自宅への送迎の時に、保護者と話す時間を設け、支援に繋がっています。個別懇談だけではなく緊急時は支援会議を要請し支援計画の見直しなども行っています。		保護者、学校、相談支援事業所と密に連絡を取り合い、子どもの情報を共有し、いろいろな角度から検討して、個別の支援計画に生かしていきます。
	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者や担当児童の担当者が参加しています。また、より良い支援に繋げるために積極的に情報を発信しています。		今後もより良い支援ができるように、担当者会議に参画して、情報の共有に努めていきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし		該当なし
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	適宜支援者会議を開催したり、必要に応じて電話連絡したりして情報共有をしています。また、送迎時に担当者と話をして、情報を共有しています。		今後も円滑な引継ぎができるように、認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有に努めます。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在は小学校の子どもの利用が多いので、障害福祉サービス事業所に情報提供をすることはありませんが、子どもによっては、卒業後の進路を見据えて作業的な学習の取り組みをしています。		今後そのような機会があれば、円滑な移行支援ができるよう十分な情報を提供します。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要な研修には積極的に参加し、職員全員で共有するようにしています。		専門機関と連携し、必要な研修だけでなく、専門性を高めるための研修にも積極的に参加します。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	積極的に地域に出て、障がいのある無関係なく交流することを意識しています。地域の児童館のプログラムに参加したり、子ども食堂を利用したり地域の公園で一緒に遊んだりして交流を持っています。	はい8名 どちらともいえない3名 いいえ1名 わからない12名	子どもの実態に応じて計画的に地域での活動に参加し、積極的な交流を図ります。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在、事業所の行事に地域住民の招待などは行っていません。公園などに出かけた時には、挨拶をしたり一緒に体操をしたりして交流している。		感染症の状況や個々の特性を考慮しつつ、地域の方との交流が持てるような場を設定できるよう、積極的な運営を考えます。
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時において、重要事項説明書を使って説明しています。別途費用が発生するものに関しては、事前に説明して了承、選択していただいています。	はい24名
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		保護者と面談し、計画書を示しながら口頭で説明したうえでサインをいただいています。	はい24名	保護者に安心していただけるよう丁寧な説明をしていきます。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		積極的なペアレント・トレーニングは行っていませんが、保護者支援に対する助言はおこなっています。	はい15名 どちらともいえない2名 いいえ3名 わからない4名	保護者のニーズに合わせたペアレント・トレーニングができるように、職員の知識を深めていきます。
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		送迎時やメール、電話などで保護者と情報共有しています。いつでも保護者からの連絡に対応できるようにしています。	はい21名 どちらともいえない3名	今後も継続して保護者との連携を深め、子どもの状況や課題等の共通理解を深めていきます。
5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		相談があった時には、しっかりと話を聞くようにしています。相談の内容によっては、必要に応じて関係機関へつないでいます。	はい21名 どちらともいえない4名 わからない1名	今後も保護者と信頼関係を築き、相談しやすい関係づくりに励みます。
6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		希望者には実施しているが、全員を対象にして実施はしていません。	はい5名 どちらともいえない3名 いいえ6名 わからない10名	個々の家庭の事情や考え方が異なるため、ニーズなどを確認したうえで、今後考えていきたい。
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		苦情があった場合は、内容を確認して迅速かつ適切に対応しています。	はい17名 いいえ1名 わからない7名	苦情に対しての確認を迅速に行い、報告できるようにします。また、同じことが起こらないよう、職員で検討して対応していきます。
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		保護者とは常にラインや電話でつながり、必要に応じて訪問などを実施しています。また子どもの障害特性に応じて、じっくりと関わるようにしています。	はい24名	これからも保護者の気持ちに寄り添い、安心して利用していただけるように情報を伝達していきます。また、いろいろな方法で子ども達の気持ちを引き出せるように努力します。
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		ライン、あまはれ通信、連絡帳などを活用して活動概要がわかるようにしています。また、送迎時に口頭で情報を発信しています。	はい18名 どちらともいえない2名 いいえ1名 わからない3名	活動内容などを連絡帳に記載しているが、今後は定期的な通信などの発行によって、保護者に伝わりやすいようにします。
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応		職員には、秘密保持の誓約書をとっています。個人情報が記載された書類は、鍵付き書庫に保管し、PCにはパスワード設定、ホームページへの顔出しなどは事前に了承をいただくなど、常に気をつけています。	はい21名 わからない3名	徹底した個人情報の管理によって、保護者が安心して話ができるようになります。
1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	保護者に対しては地震や火事など緊急時の避難場所などはお伝えしています。また必要に応じて、感染症対応に関する説明の掲示などを行っています。	はい18名 どちらともいえない2名 わからない4名	防災に関する新しい情報を常に取り入れて更新し、マニュアルの見直し、職員間の周知徹底、保護者への説明に努めます。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に訓練を実施し、連絡帳等でその様子を保護者に伝えています。	はい12名 どちらともいえない2名 わからない10名	ビデオなどを活用して、子ども達の災害に対する意識を高めていきます。また、避難訓練などを実施して、避難の仕方を経験していきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	虐待防止委員会を設置し、虐待防止の研修に参加するとともに、職員で共通理解をしています。		研修会に積極的に参加し、支援の見直しや虐待に関する知識を身に付けて、どのようなことが虐待になるのかを定期的に確認していきます。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束に関しては、現在対象の児童はいません。		ケース担当者、児童発達管理責任者、虐待防止委員会にて検討していきます。危険を伴う行動の規制については、保護者に事前に説明します。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーのある子どもについては、保護者から丁寧に聞き取りをして対応しています。		保護者よりアレルギー症状発生時の対応に関しての指示書をいただき、適切な対応ができるように全職員への周知徹底を図ります。緊急対応マニュアルを作成し、緊急時に備えています。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットが発生した場合、直ちに管理者に報告するとともに、報告書をもとに会議の場でも周知徹底しています。		事故防止の観点から、ヒヤリハットに対する意識を高く持ち、会議で共有します。また、同じことが起こらないように、職員全体で支援や対応のあり方を考えます。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか		はい22名 どちらともいえない1名 わからない1名	これからも子どもたちが安心して楽しく通所できるよう努めていきます。
	2 事業所の支援に満足しているか		はい24名	これからも子どもたちや保護者に満足していただけるよう支援の質の向上を目指します。